



県民の森 植物紹介③①ーウワミズザクラ (バラ科ウワミズザクラ属)ー

花は5月下旬から6月。県民の森でいちばん遅く咲くサクラです。名前はサクラですが、花は試験管を洗うブラシのような形で、白い花が穂状にたくさんつき、一般的なサクラのイメージとはずいぶん異なります。

実ははじめは緑色、だんだん赤く染まり、夏から秋にかけて熟すと黒くなります。熟した実は甘くて美味しいです。新潟や富山では、花のつぼみを塩漬けにして食べるそうです。また、若い実を漬けたお酒は「杏仁子（あんになご）酒」と呼ばれ不老長寿の酒とされています。

熟した実は、ツキノワグマの大好物です。クマは木によじ登って枝をへし折っては手繰り寄せて実を食べます。折った枝はお尻に敷いていくので座布団のようになります。これを「熊棚」と呼んでいます。岩手山の麓はクマが暮らしています。県民の森でも「熊棚」を観察できます。

ウワミズザクラの名前の由来は「上溝」で、「溝」は占いに使われたカメの甲羅につけられた溝を指し、ウワミズザクラを薪として燃やし、その上で亀甲を焼いて裂け方で収穫を占ったそうです。

